

## 家庭教育は心から

小林 雅代

全家研 桑名たんぼ支部 支部長  
(三重県三重郡菰野町)

### —はじめに—

土曜の午後、我が家に母犬と八匹の子犬がやってきました。動物愛護団体の方との雑誌がきっかけで約一ヶ月預かることになったのです。母犬はすごい、八匹もの子犬を立派に育てています。子犬がおしっこをすればお尻からきれいに舐めます。自分のトイレが終わるとそれこそ一直線に我が子の元へ走り、いつも我が子のことが優先です。初めての体験で母犬の素晴らしさを目の当たりにして感動の毎日でした。

### ☆家庭教育をする人は？

家庭教育をする人イコール母親と考える、またそう思ってやっているお母さんがほとんどではないでしょうか。

一方、お父さんは仕事や自分の付き合いに忙しくて、子どもと遊ぶ時間がありません。その結果、どうしても子どもは母親まかせになってしまうのが現実です。お母さんは、家事に育児に大忙し。そして家庭から遠ざかっているお父さんは、帰宅しても子どもとのふれあいの時間もとれず、家と会社の繰り返しをするばかり。ふと気付くと、自分の居場所が家庭内に見つからない！これでは家族と言えないのではないのでしょうか。

子育ては大変ですが、一人よりも二人の方

がいい。互いに助け合って楽しみも苦しみも分け合っていくべきです。

私の幼い記憶に、バス停まで父親を迎えに行くのが楽しかった思い出があります。何時頃のバスで帰って来ることしかわからない父親の乗って来るバスを、何台も遊びながら待つのです。今思うと父はよく話を聞いてくれました。母は農家の嫁として毎日が忙しく、祖母も居て、とても四人の子どもの話を聞く余裕がなかったと思います。その中で父は母の代わりと思い、バス停まで迎えに来る子ども達との帰り道を大切にしてくれました。みんな思い思いに話をします。聞くのも大変だったと思います。ある日、兄弟げんかをして母にしかられ、半泣きで父を待ちました。家までの道々理由を尋ね、話を聞いてうなずいてくれる父、それだけで癒されました。父は家族の友であって決して王様ではありませんでした。

子どもと遊ぶ時間を見つけてください。子ども達と共に夕食を食べてゲームをし、テレビを見ながら親子の時間を楽しむ、こんな余裕があれば両親揃って家庭で子どもの教育をすることができるのではないのでしょうか。

### ☆子ども天国の日本

日本の子どもは学校の成績が優秀なら大抵のことは大目に見られ、親はいい成績がとれるように子どもを助け、その結果子ども達は、責任や我慢を身に付けないまま大きくなってしまい、母親が「家の仕事を手伝って」と言っても、勉強がある、アルバイトが大変だと母親に対する言い訳をつくり出して言う、そんな家庭が多いのではないかと思います。

家庭内で小さな頃から子どもに責任を与え

る仕事、例えばお茶わん並べ、ゴミ出しみたいな簡単な家事仕事をやらせて、小さな手伝いでもあなたの仕事だよと責任を持たせることが家庭教育になると思います。

モニターさんから聞いた話ですが、毎日の風呂掃除を長男の仕事として任せていたある日、友だちとの遊びが楽しくて忘れていました。夜になって思い出して、隠れる様に大急ぎで洗っていたのを見ていたお母さんは、何も言わずにそのまま湯を張りました。その夜は一緒にお風呂に入って「今日はいつもと違ってゆっくりとつかってられないね。なんでかな～、みんな気持ちよく入りたいのにね。お母さんがご飯を作るのを忘れて、卵がご飯だけだったら、お父さんは仕事から帰って来てがっかりだよ。家の仕事は家族全員のためにみんなが責任を果たさなきゃね。」と言ったそうです。彼女はステキな家庭教育をしていると感じました。

子どもとはいえ、家の中で任された仕事に責任をもつことの大切さ、果たせた時の家族の感謝の気持ちが伝わる家庭がここにあると思います。

たとえ子どもであっても、家族、他人にどう接し、どう振る舞うかを教える。その結果、人としてバランスのとれた成長ができると思います。

### ☆いのちをいただく

食事は子育ての中でも優先課題でした。子育てで一直線の頃は毎日栄養のバランスを考え、食材にもこだわり、家庭料理を作り自己満足をしていました。大人になった息子から「実はこれは好きでない」と言われてエーッと驚く母親ですが、とにかく好き嫌いなく何でも

食べてくれました。これは祖父母と共に食卓を囲む生活のお陰だったと感謝します。最近の若いお母さんから、自分の作った料理を子どもが食べてくれないと聞きます。「これは嫌い」「あれが食べたい」などと子どもが言い、欲しい物が毎日並ぶ食卓が当然だと思い、食べ物に感謝し、おいしいと思う気持ちが段々と失われているように思います。食べ物に感謝をする——作ってくれたお母さんに、野菜を育ててくれた人に、魚にも豚にも感謝する気持ちが生まれたら「これは嫌い」と言って残すことは失くなるはずです。

以前頂いた新聞の切り抜き『心をこめて「いただきます」「ごちそうさま」を』のエッセイの始めに「朗読を聴いて、ムスメが食事を残さなくなりました。」とお母さんのメッセージが書かれています。朗読された絵本は『いのちをいただく』です。この絵本は食肉加工センターの坂本さんのお話です。牛肉は食べても、このいのち（肉）を私たちにくれた牛のことは考えてみたことはありません。残さず食べる（食べる分だけ取る）こと、これは当たり前のことかもしれません。子ども達はわかっているはずとわかっていてはわかっていません。

親子で話し合ってください、命のことを、いのちをもらって命が育つことを、きっとわかってくれるはずです。感謝する気持ちの素晴らしさが伝わったら、本当のいのちの家庭教育になると思います。